

青森

13-1 Kashiwa kuwanokita Fuku,
Togaru-shi, Aomori, 038-3104, Japan

広
大
山
浄
円
寺

つ
が
る
の
う
た
た

*Aomori
Joenji*



創刊号
1

<http://joen-ji.or.jp>

創刊にあたり

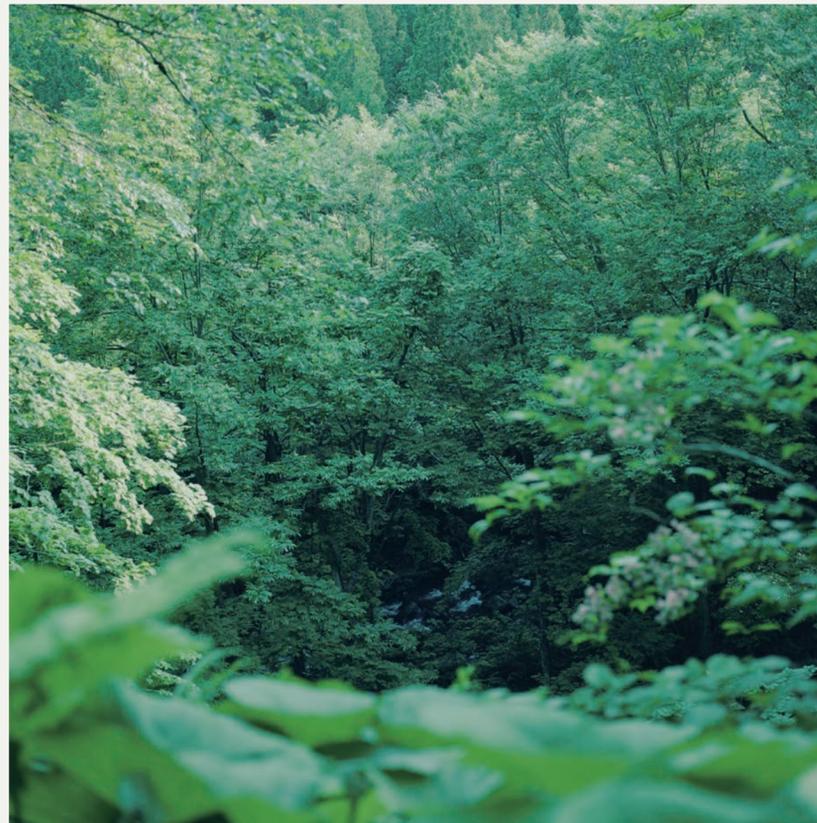
ひとは、ひとりでは生きていきません。
とくに、厳しい冬が訪れる津軽では、
古くから人々が助けあい、励ましあって暮らしてきました。
浄円寺もまた、地域の方々に支えられ、
檀信徒の皆様のご厚意によって
約400年にわたる歴史を紡ぐことができました。

いま、かつてない速度で生活様式が変化しています。
仏教寺院もそのあり方についてあらためて考え、僧侶として、
地域社会の一員としてできることを
行動すべき時機だと考えています。

今後50年、100年先の浄円寺の姿勢をしっかりと定め、
その想いをご縁ある皆様に
広く伝えるために「つがるのうた」を創刊します。

津軽の美しい風景と豊かな文化とともに、
これからの浄円寺がどうあるべきかを
皆様と一緒に考える機会になればうれしく思います。

———
広大山 浄円寺



「ここにはなんにもないとこだから」と地元の方に言われましたが、あれは謙遜だったのだとすぐに気付きました。春に訪れたとき、桜と林檎が仲良く並んで花を咲かせているのを見つけました。七里長浜で眺めた夕焼けに、この景色がどれほど多くの人の気持ちを救ってきたのだらうと思いました。

自動車で移動していると、さっきまで岩肌がごっこつしていた津軽富士が、まるで違う顔をしてなだらかになっていくことに驚きました。津軽の人が教えて

くれるおすすめの角度がどれも違うはずです。

この地に根ざしてきた浄円寺の現在と将来を伝えるにあたり、私たちは津軽の豊かな自然環境とともに語るべきだと考えました。

ずっと津軽にお住まいの方も、いまは故郷を離れて暮らす方も、あらためて地域の魅力を楽しんでいただけましたらこんなうれしいことはありません。

つがるのうた 編集部





僧侶にとって大切なのは
自然体でいること。

Shozui Sato
広大山 浄円寺
第53代住職
佐藤 彰瑞

自分に何ができるか。
その重みについてよく考えています。

Kantoku Sato
広大山 浄円寺
副住職
佐藤 顕徳

特別対談 — dialogue

これから

の

浄円寺

創建からおよそ400年。地域に寄り添い、檀信徒の皆さんに育まれてきた浄円寺を守る住職と副住職のふたりが、これからの寺院のあり方や僧侶の役割について話しました。

聞き手・米原有二 text by Yui Yonehara

若き僧侶の悩み

顕徳 34歳で仏門に入ってから4年が経ちました。お寺に生まれ育ちながら一度は家を出て違う分野の道に進みましたから、随分遠回りをしました。彰瑞 僧侶として浄円寺に帰ってくる

ことを、副住職自身の意思で決められたことがなによりもうれしかったですね。もちろん、寺を継いでほしいという気持ちはありませんが、私には口にできなかった。厳しい道ですから、周囲の希望ではなく本人が決断すべきだと考えていたからです。師である前に、父親ですから。

顕徳 京都(総本山知恩院、大本山百萬遍知恩寺)、鎌倉(大本山光明寺)での修行期間を経て、あらためて思うのは「自分はお寺のことを何も知らなかったんだな」ということ。日々のお勤めや檀信徒の皆さんのお付き合いなど、いまま毎日が勉強です。

彰瑞 修行を終えて帰ってきたとき、表情が以前とはまったく違うことに驚きましたよ。それはきっと、僧侶としての覚悟のあらわれだったのでしょうか。「副住職」には、少しは慣れてきましたか？

顕徳 法話は今でも緊張しますね。檀信徒さんは年上の方ばかり。私は子どもや孫のような年齢ですから、果たして説得力があるのかなと悩みます。住職も若い頃にそんなことを考えましたか？

彰瑞 もちろん。それは僧侶なら誰もがつまづく悩みですよ。自分より人生経験豊富な方に説法するのは難しいし、おこがましい気持ちがあつて当然です。その自覚があるだけで十分だと思います。それに、仏に仕える若き僧侶だからこそ伝えられることもあるんじゃないでしょうか。僧侶にとって大切なのは自然体でいること。立場にとらわれて無理をせず、等身大の自分で檀信徒さんに接することです。

dialogue



広大山 浄円寺 第53代住職
佐藤 彰瑞

いま、あらためてお寺の役割を考える時機。次代を見つめる副住職を支え、見守っていききたいと思います。

とっては、お寺や仏教は縁遠い存在になつてしまいました。
彰瑞 この数年で県外へ転居された檀信徒さんも増えました。お墓やご位牌をお預かりしている遠方の檀信徒さんなどのようにお付き合いを続けていくか。私たちが考えるべき課題はたくさんあります。
顕徳 故郷を離れて暮らしていても「最期は生まれ育った土地で」というご要望も少なくありません。今後は、永代供養の制度など、時代に即した仏教のあり方について考えていきたいですね。
彰瑞 地域におけるお寺の役割についてもあらためて考える時機なのかもしれません。
顕徳 現在、位牌堂ではおおよそ450基の仏壇をお預かりしており、毎月25日(法然上人ご命日)の法要には多くの方がご先祖に手を合わせに来てく



広大山 浄円寺 副住職
佐藤 顕徳

地域に見守られてきた浄円寺の文化をしっかりと引き継ぎたい。いつも自然体で人と向き合える僧侶でありたいと思っています。

ださいます。お寺に気軽に足を運び、お友達の皆さんとお茶を飲みながらおしゃべりして帰って行く。これはとても素敵な光景だと思えます。
彰瑞 お寺は、信仰だけではなく地域のコミュニケーションの場でもありますからね。次世代にも伝えていきたい文化です。
顕徳 来年には、7年に一度の「授戒会」もあります。仏教や寺院を体感する機会として多くの方にご参加いただきたいですね。
彰瑞 次代を担う副住職には「法灯を守る」という想いを持ち続けてほしいですね。これまで先人が灯し続けてきた浄円寺の火を副住職らしい方法で守り続けてほしいと思っています。
顕徳 あらためて、身が引き締まる想いです。一日も早く、檀信徒の皆さんから頼りにされる存在になるよう精進します。



dialogue



悲しみに寄り添う

「顕徳 僧侶は、「悲しみの現場」に立ち会うことが大きな勤めです。ご遺体とご遺族を前にして、自分に何ができるか。その重みについてよく考えています。
彰瑞 言葉が不要なときもあるでしょう。ご遺族にとっては、僧侶がそばにいてだけで気持ちが少し楽になることもある。
顕徳 住職は昔からご不幸のご連絡があると、早朝深夜にかかわらずお寺を飛び出して向かわれていましたね。幼い頃、住職のそんな姿を見て「お坊さんって大変だなあ」と思っていたことをよく覚えています。
彰瑞 ご遺族にとっては少しでも早く僧侶に立ち会ってほしいものですから



ね。普段、寺院を支えて下さっている檀信徒の皆さんに恩返しできることはそれぐらいしかないですよ。
顕徳 どんな方の、どんな人生にも素晴らしい価値がある。それを心から信じられるのは僧侶しかいないと思つています。言葉でうまく伝えられないなら、せめて悲しみに寄り添うことで、人生の最期を一緒に過ごしたいと思つています。
彰瑞 檀信徒の皆さんからは、葬儀での副住職の読経に「心のこもった良いお経を頂きました」と言っていたことが多くです。大丈夫、想いはちゃんと伝わっていますよ。
法灯を守る。
顕徳 今は「お寺離れ」についてよく言われますね。とくに若い世代の方々に



interview



志六

齊藤さんによる新作「歌舞伎創生 出雲阿国」の原画。背面には歌舞伎の人気演目の主人公「助六」を配し、躍動感を高めている。立佞武多祭は毎年8月4日～8日(19:00～21:00)に開催。制作風景は[立佞武多の館]で見学可能。



立佞武多師
齊藤 忠大(さいとう・ただひろ)

1976年、五所川原市生まれ。舞台美術の仕事を経て、帰省中に偶然見た立佞武多に魅かれ制作に携わり始める。現在は五所川原市の職員として[立佞武多の館]に勤務し、立佞武多の制作と文化継承に尽力している。

■立佞武多の館
五所川原市大町506-10 TEL:0173-38-3232

interview

地域

五所川原の立佞武多

Tachineputa

晴れ舞台は5日間、製作は1年間。
木と針金、和紙を駆使して生み出す光の芸術。



立佞武多師 齊藤 忠大

Tadahiro Saito

五所川原の宝

五所川原の夏を彩る立佞武多祭。高さ約23メートル、重さ約19トンもの立佞武多が「ヤッテマレーヤッテマレー」のかけ声とともに市内を運行する姿は壮観のひと言に尽きる。

「立佞武多は近代に一度途絶えましたが、1996年に地元有志によって復興されました。五所川原の人々が自らの手で守り、受け継いできた『宝』なんです」と話すのは立佞武多師の齊藤忠大さん。現在、立佞武多の制作を行う立佞武多師は3名。毎年、ひとりが持ち回りで主制作者になり題材の決定から原画制作、作業工程の管理までを担当する。立佞武多の制作期間は約1年。8月に祭りを終えると立佞武多師は息つく暇も

なく翌年の原案に着手する。地域の伝承や故事から題材をとって原画を描き、立佞武多の設計図となる下絵を描き始めるのだ。立佞武多に設計図はなく、立佞武多師は一枚の下絵をもとに木製の骨組みに針金を巡らせて構造をつくり、その上に和紙を貼って三次元化していく。

「全体的な造形の美しさはもちろん、地上から見上げたときの迫力にも気を配っています。なかでも大切なのは人物の表情。立佞武多に携わってもう17年になります。顔に墨を入れる瞬間は今でも緊張しますね。興奮と不安、半々な」(齊藤さん)

伝統を、守る

2016年の新作は「歌舞伎創生 出雲阿国」。安土桃山時代に活躍し、歌舞伎の礎を築いた女性を躍動感溢れる姿で表現する。立佞武多が復興してから第19作目、齊藤さんが主制作者として携わるのは今回が5作目となる。

「これまでさまざまな題材にチャレンジしてきましたが、女性を立佞武多にするのは初めてのこと。しかも、女性には針金の構造線が表情を力強くしすぎてしまうために、男性に比べて遙かに難しい題材なんです」

300本を超える蛍光灯の透過光が映す針金の影は、勇壮な武者であれば迫力の演出になる。しかし、女性らしい優美な表情を生むにはあまりに強すぎるのだ。そこで、齊藤さんは頭部の構造の一部に透明の

アクリル材を使用することで出雲阿国のやわらかな表情を生み出した。まるで陶器のようにつるんとした肌の質感は、これまでの立佞武多にはなかったものだ。

「かつて、竹ヒゴを針金に変えたことで表現の自由度が上がったように、時代ごとの自由な発想が立佞武多の可能性を広げていくんだと思います。「伝統を守る」とは、こうした試行錯誤を次世代に伝えていくことではないでしょうか」

「まだ誰も見たことがないような立佞武多をつくりたい。完成をひと目見ようと出陣に集まってくれる人たちがあつと驚かせたい」と話す齊藤さん。今年の夏、五所川原の街を壮麗に練り歩く出雲阿国が、きっと多くの観衆を沸かすことだろう。

地域

四十九日の焼き菓子

community

故人を偲ぶ気持ちを大切に



■四十九日(満中陰)法要の積み団子…50個の団子を山状に積んで、ひとつは寺院の山門にお供えする。法要が終われば皆でお下がりを頂きます。



(左から)小関淑子さん、先代夫人の小関和子さん、淑子さんの妹の丸海老あつ子さん。母娘で支える名店。地元の素材をふんだんに使ったケーキが人気。

洋菓子店カルネドールが五所川原に誕生して57年。創業者の故・小関勝治さんが和菓子店に生まれ育ったこともあって、洋菓子だけではなく季節を伝える和菓子も販売してきました。また、四十九日法要の際に供える「積み団子」も手がけています。この数年、要望が多いのは焼き菓子を盛った「積み団子」です。あんドーナツ、抹茶パウンド、フルーツケーキ、マドレーヌ。どれも五所川原の人には馴染み深いカルネドールの定番商品。これは、浄円寺住職の「故人を偲ぶ気持ちがあれば、洋菓子でもいいんじゃないかな」というひと言がきっかけで生まれました。カルネドール代表の小関淑子さんは代々の檀家でもあります。「アドバイスを頂き地域の方々にご案内したところ『子どもがよろこぶ』『団子よりも日持ちが良い』と好評で。いつの間にか定着しました」。幼い頃から浄円寺に通う小関さん。「昔から、ほっと安心する場所。ご先祖様に手を合わせて、『さあ、また頑張ろう』って思っています」

洋菓子店 カルネドール 五所川原市大町2 TEL:0173-35-1151

平成28年 年中行事

浄円寺での年中行事予定のご案内です。

法要	奉修日	法要時間	当番地区名
御忌法要 金光上人法要	3月24日(木) お逮夜	午後6時	稲盛・玉水・芦屋・今市・出野里・三和・藻川・高瀬・小曲 鶴見里
	3月25日(金)	午前11時	
御講	4月25日(月)	午前11時	平成28年:小和巻(平成29年:下町 平成30年:上派立)
御講	5月25日(水)	午前11時	上相野・栄田・沖中野・笹木・下相野・広須・姥島 永田・濁川・中館・蓮花田・林・大畑・館岡・平滝・大湯町・土滝
御講	6月25日(土)	午前11時	加納・石館
施餓鬼法要	7月18日(祝)	午前11時	菩提寺 ※毎年海の日(変更になりました)
御講	8月25日(木)	午前11時	遠山・千代田・菊川・南広森・近野・三ツ館・中田・吉野・猫淵 森田・床舞・大館
御講	9月25日(日)	午前11時	鷺坂・上町・下木造・里見・生田・兼館・出崎・柴田・松島・敷島
御講	10月25日(火)	午前11時	岩木・石岡・尻無・鶴田・鶴泊・尾原・田の尻
御十夜	11月14日(月) お逮夜	午後6時	位牌堂の御膳は15日のみです。 各自作って頂き、後片付けをお願いいたします。 ※ご飯とお味噌汁はお寺で用意いたします。
	11月15日(火)	午前11時	

【当番の役割】法要は地区ごとに当番制があり、奉修日に各自お供え物を持って当寺までお越し頂き、仏壇にお供えをします。集まっていたいた皆様で片付けまで行い、法要を執り行います。

季節の行事予定のご案内です。

- 修正会 1月1日(金)午前0時
1年の安寧を祈る元日のお勤めをします。108回の鐘をついてあります。
- 春彼岸法要 3月20日(日)午前11時
彼岸の中日にご先祖様の供養をいたします。
- 水子供養 8月13日(土)午後4時
水子、嬰兒の供養をいたします。随時、供養を受付いたします。
- お盆法要・ト一口供養 8月13日(土)午後4時
ト一口(ろうそく)を灯してご先祖様をお迎えします。
夕方になると境内がト一口のあたたかな灯りで満たされます。

※境内は、車椅子でお越しの方にもご参詣いただけるように対応しておりますので、安心してお越し下さい。

発行：広大山 浄円寺

〒〇三八 - 三一〇四 青森県つがる市 柏桑野木田福井一三の一

Director: Ai Uechi(discovery go) Photographer:Kazuya Sudo(discovery go) Assistant Photographer:Miho Sato(discovery go)
Art Director:Takahisa Suzuki(16 design studio) Copywriter:Yuji Yonehara Paper Design:Takahisa Suzuki(16 design studio)
Website design:full size image inc. Website markup:full size image inc. Illustrator:Ayako Motonaga Production:discovery go inc.

<http://joen-ji.or.jp>

13-1 Kashiwa kuwanokita Fukui,
Tsugaru-shi, Aomori,
038-3104, Japan

広大山
浄円寺